

授業概要

講義を通して授業づくりをする上での基盤を構築したうえで、ビデオ等を利用し、各運動領域の特性を理解し、実践上の視点を明らかにしていく。その上で、実際に指導案を作成し、討議を行い、体育の指導についての理解を深めていく。また、近年、反省的实践家としての教師が強く求められているように、常に授業改善しながら、よりよい授業づくりに向けて努力ができる資質を養う必要がある。これが、いわゆる「授業の省察力」ということになる。この力を身につける為に、模擬授業を通し、授業分析を演習する。

授業計画

第1回	体育の授業づくりにおける教材研究上の視点を学ぶ授業である。
第2回	体育における様々な学習形態について方法的側面と組織側面から知り、その長所と短所を理解する。
第3回	体育における子どもの視点に立った学習過程について理解する。
第4回	現在、求められる体育の学習評価の在り方について理解する。
第5回	小学校の運動領域編成と学びの系統性について理解する。
第6回	基礎理論を参考に具体的な授業のビデオを視聴し、各運動領域の授業づくりを学ぶ。(1)
第7回	基礎理論を参考に具体的な授業のビデオを視聴し、各運動領域の授業づくりを学ぶ。(2)
第8回	保健領域について学び、運動領域との関連について理解する。
第9回	体育の授業づくりの手順を理解し、教材研究の進め方、学習指導案の作成について学ぶ。
第10回	「体づくり運動」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
第11回	「器械運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
第12回	「陸上運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
第13回	「ボール運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
第14回	「表現運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
第15回	「保健」の模擬授業及び、授業のまとめのワークショップを行う。
第16回	テスト

到達目標

本講義のテーマは、体育授業づくりの視点とその活用である。また、本講義では、体育授業実践に触れながら自らの身体を問い、体育における、教師の児童と関わる素地を育成することが目的である。その為、次の各項目を学習の目標とする。

- 1) 体育の学習観を捉えなおし、授業づくりの基盤を確立することができる。
- 2) 体育授業実践上の教師としての構えを身につけ、教材研究を通し、カリキュラム論的な視点をもった授業づくりができる。
- 3) 体育授業づくりの視点を明確にし、単元計画を立案し、指導案の作成ができる。

履修上の注意

毎回の授業が関連しあっているので、欠席することなく、講義に出席すること。

予習復習

テキストを使用し、予習と復習をすること。

評価方法

前半の講義では、毎時間、学習内容に関するミニレポート作成を行う。また、後半の演習を中心とした講義では、これまでの成果を生かして教材研究を行い、学習指導案を提出させるとともに、模擬授業実践・授業観察・分析の演習を行う。それらを総合して、授業の最終講義で、ワークショップを行い、日々の学習における成果と期末レポートにより総合的に成績評価を行う。ミニレポート(35%)授業実践・授業観察(30%)学習指導案(35%)。総点において80点以上が優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可と評価する。出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。

テキスト

鈴木直樹・梅澤秋久・鈴木聡・松本大輔(2014) 学び手の視点から創る小学校の体育授業。大学教育出版。